

はじめに

この本を手にとってくれたみなさんへ



この本を手にしてくれたキッカケ。それはさまざまと思う。「ゲイ、レズビアン？ 性同一性障せいどういつせいしょうがい？ それって、どう違うの？」「聞きたいことはたくさんあるけれど、だれに聞けばいいの？」「クラスの友だちに、ゲイだと打ち明けられた」「将来、教員や養護教諭きょうごをめざしているの、エルジービーティーエルジービーティーについて知りたい」「本屋さんで見かけて、ただなんとなく……」などなど。

この本は、みなさんのそうした心のなかのモヤモヤや、「わかっているようで、よくわからないなあー」という素朴そぼくな疑問を解消するヒントを、コンパクトにまとめて伝えようとするものだ。

LGBT（エル・ジー・ビー・ティー）。聞きなれないことばかもしれない。レズビアン（Lesbian）、ゲイ（Gay）、バイセクシュアル（Bisexual）、トランスジェンダー（Transgender）の頭文字をとって、LGBT。

北米やヨーロッパで使われはじめたことばで、自分たちを肯定的に語ることばとして、日本でも最近やっと使われるようになった。「セクシュアル・マイノリティ」ともいい、^{ほんやく}翻訳すると「性的少数者」「性的マイノリティ」っていわれる場合が多いんだ。

この本では、これからLGBTについて説明するわけだけれど、このとき、3つの要素を使って伝えていきたいと思う。

①カラダの性 ②ココロの性 ③スキになる性

人間の性のありかたは本来、複雑なのだけれど、まずは、この3つの要素でシンプルに説明してみたいと思う。

ところで、LGBTって、この世の中にどのくらいいると思う？

同性を好きになる人は、どの国・地域、時代にも人口の約3～5%いるんだ。トランスジェンダーの人は数千人に1人いるともいわれている。

同性を好きになる人は20人～33人に1人。つまり、クラスに1人はいる計算、って考えるとわかりやすいんじゃないかな？ キミの通っている（または通っていた）学校のクラス数と同じ割合くらいで、同性を好きになる人はいるんだ。

クラスを飛びだして、ぼくらの住む日本で考えてみよう。日本の人口は1億2777万人。3%という数字は静岡県の人口、4%は福岡県の人口、5%は千葉県の人口と同じくらいなんだ。

スケールの大きさに^{おどろ}驚きじゃない？

こう考えてみると、LGBT って、じつはとても身近な問題なのがよくわかってもらえると思う。だって、もうすでに、みなさんはLGBTに出会っているんだから。

「でも、出会ったことがないよ！」——そんな声が聞こえてきそう。そう、「なんで出会ったことがないのか？」。それを考え、発見することがこの本の目的でもある。

じつはLGBTを考えることは、これからの自分の生き方、人とのつきあい方、もっと言えば、社会を見つめるときに、とても大きなヒントになることだと思うんだ。

そして、もうひとつ、大切なお話。自分がLGBTかもしれない、と^{なや}悩んでいるキミへ。

いまはとても不安で^{こりつ}孤立しているかもしれない。自分のことがモヤモヤとしていて説明できないかもしれない。でも、キミの知っている世界よりもずっと、この世界は広い。笑顔で暮らすLGBTの仲間もたくさんいるし、キミを大切にしてくれる人もいる。この本をとおして、少しの^{ちえ}知恵と勇気と希望をキミにプレゼントできたら、ぼくはうれしい。

▼この本の使いかた

- ①この本は思春期～大人までを対象に、できるだけ簡単に、ふりがなをつけて書いてあります。
- ②LGBTにかかわる情報発信の場、活動などを巻末に^{しょうかい}紹介しています。よりくわしく知りたい人は、こちらをあわせてご覧ください。

目次

はじめに この本を手にとってくれたみなさんへ……………3

目からウロコの第Ⅰ章

- 01 “^{ちが}違い”って、なんだ?…………… 10
- 02 カラダ ココロ スキ?…………… 14
- 03 カラダの性 (生物学的性)…………… 19
- 04 ココロの性 (性自認)…………… 23
- 05 スキになる性 (性的指向)…………… 26
- 06 頭のなかのゴチャゴチャ、整理します…………… 31
- 07 たとえばこんな誤解、あります…………… 36

ここがヤマ場の第Ⅱ章

- 08 ぼくの出会ったLGBTの人たち…………… 42
- 09 たかがおっばい、されどおっばい…………… 46
- 10 出会えるはずなのに出会えない…………… 50
- 11 性のすがたはグラデーション…………… 54
- 12 ^{こりっ}孤立という共通のテーマ…………… 58
- 13 カミングアウトする…………… 62
- 14 カミングアウトを受けとめる…………… 66

未来へむかう第三章

- 15 恋愛^{れんあい}の話 72
- 16 結婚^{けっこん}できる国がある 76
- 17 学校でできること 81

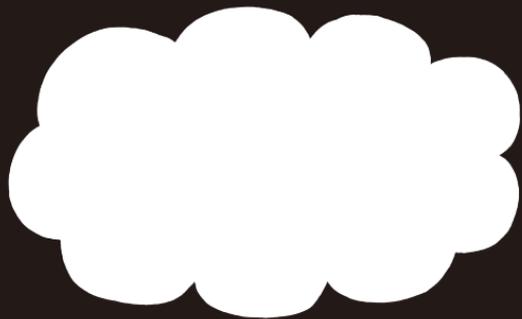
おわりに 86

もやもやスッキリ LGBTクイズ 88

LGBTについて、もっとくわしく知りたい人のために
そして、LGBTで悩^{なや}んでいる人のために 92



LGBT





**目からウロコの
第I章**

“違い”って、なんだ？

“違い”は、ぼくらが幸せに
生きるための知恵。



「違い」って、なんだろう？

この世の中には、じつにいろんな人がいる。街を歩けば、同じ顔の人はだれもない（街を歩いていて偶然、自分とまったく同じ顔の人に出会った、なんて経験をした人はだれもない！）。世界をみれば、民族、皮膚の色、体格など、じつにさまざまな「違い」をもった人が数多くいる。

なぜだろう？

みんなが同じ姿や形をしていて、趣味も、好きな食べ物も、得意なスポーツも、苦手な教科も、みんな同じならば、たぶん、社会はうまくまわらないだろう。オリンピックだって、できない。

「違い」は、地球に暮らす生物の生きる知恵でもある。たとえば、もし地球上に、寒さには強いけれど、暑さにはめっぽう弱

い人間しかいなかったとする。そうすると、地球の温暖化が進めば、人類の生存もままならない。寒さに強い人間もいれば、暑さに強い人間もいる。背の高い人間も低い人間も、障がいがある人も、ない人もいる。そうやって「多様なありかた」があることで、いろんなバージョンの状況じようきように対応できるってワケだ。

この、「人はそれぞれ違う」ということで毎日の生活がうまくまわっている、ということは、みんな経験的に知っている。

給食の時間、みんなの好き嫌きらいが同じなら、ぼくの大好きなあげパンあげは奪うばいあいになってしまうし、かけこがクラスで1番のキミと同じようにみんな走るのが速かったら、キミは1番にはなれない。歌のうまいとなりのクラスのあの子も、みんな同じように歌がうまかったら、みんなと同じフツウの歌声。

恋愛れんあいだってそうだ。自分とまったく同じ人間になんて、恋こいをしないだろう。違いがあって、どこかミステリアスで、でも知りたくて……。だからこそ、人は恋こいをするのだ。

社会生活を営んでいくうえでも、「違い」は大切だ。ほかの人と違う特性があるからこそ、社会で活躍かつやくできるのだし、おたがいを補いあうことができる。

でも、この「違い」というのには、少しやっかいな部分がある。それは、自分だけのモノサシでは、自分と違う人のことがほんとうにはわからない、ということ。相手の立場を想像して、

その違いを理解する、という作業が必要になってくる。

キミが1分あれば理解できることを、ほかの人は10分かからないと理解できないかもしれない。けれど、それに不満を言うのではなく、理解して受け入れる。場合によっては助けあう。そうしなければ、自分という「ひととは違う存在」も、まわりから受け入れられないだろう。

自分と違う相手について理解し、認め、受け入れる、という作業は、みんなで生きていくうえで、とても重要な作業だ。ちょっと大変な作業に見えるかもしれないけれど、「自分のなかにない、新しい考え方や見方をえられるチャンス」と考えることもできる。



いままでの生活でおそらく、みなさんの近くにはいなかった
エルジービーティー
LGBT (L=レズビアン、G=ゲイ、B=バイセクシュアル、
T=トランスジェンダー)。このことについて理解することは、
この「違い」から何かを発見する絶好のチャンスだと思うんだ。

だって、いままで、「男に生まれ、男として、女を愛する男」
と「女に生まれ、女として、男を愛する女」の2パターンしか、
人間はいないとアタリマエのように思いこんでいたかもしれな
いけれど、じつは違うんだからね。

この本を読み進めるにあたって、頭の片すみに置いておいて
ほしいこと。それは、「人と違うということは、人生をハッ
ッピーに楽しく生きるためのチャンス」ということなんだ。

